

◆板倉史明

「『旧劇』から『時代劇』へ—映画製作者と映画興行者のヘゲモニー闘争」／岩本憲児編『時代劇伝説(日本映画史叢書④)』(森話社、2005年10月)[論文]

「吉山旭光『日本映画史年表』解説」／『日本映画論言説大系 第Ⅲ期 活動写真の草創期』第29巻』(ゆまに書房、2006年1月)[論文]

「大学の若大将」等／『日本映画：多様な展開』(文化庁、2005年11月)[解説]

「KIDS★MOMAT2005 東京国立近代美術館のなつやすみ フィルムセンター」／『現代の目』555号[報告]

「水口紀勢子著『映画の母性—三益愛子を巡る母性像の日米比較』」／『映像学』第75号(日本映像学会、2005年11月)[書評]

「パシフィック・フィルム・アーカイヴ日本映画特集報告」／NFCニューズレター第65号(2006年2月—3月号)[解説]

◆入江良郎

「日本映画史と吉澤商店」／「日本映画論言説大系 第Ⅲ期 活動写真の草創期」第22巻『明治期映像文献資料古典集成②』(ゆまに書房、2006年1月)[論文]

「尾上松之助の生誕130周年にあたって」／NFCニューズレター第60号(2005年4月—5月号)[解説]

最古の映画スターをめぐるイベント—「尾上松之助と時代劇スターの系譜」報告／『映像学』第75号(2005年11月)[報告]

◆岡島尚志

「フィルム・アーカイブによる映画教育プログラムの可能性」／シンポジウム「子どもたちと映画—映画上映と教育プログラム」(コミュニティシネマ／上映者ネットワーク会議イン金沢)(2005年11月12日)[講演]

◆岡田秀則

「科学から空想へ」／「未来」未来社(2005年7月号)[論文]

「聞こえてますか、映画の音」／「DOCUMENTARY BOX」(山形国際ドキュメンタリー映画祭実行委員会)第25号(2005年8月)[書評]

「沈む風景、浮き上がる風景」／「未来」(未来社、2005年12月号)[論文]

「闇にうずくまった人」／色川武大著『映画放浪記』(キネマ旬報社、2005年12月)[解説]

「地域映像アーカイヴの可能性」／朝日新聞名古屋版(2006年1月11日)[記事]

「父・稲垣浩を語る」／NFCニューズレター第60号(2005年4月—5月号)[構成]

「バンサ」／NFCニューズレター第62号(2005年8月—9月号)[論文]

「兪賢穆監督、自身と映画を語る」／「韓国リアリズム映画の開拓者 兪賢穆監督特集」カタログ(2005年12月)[聞き手・構成]

「反骨と信仰—映画作家・兪賢穆を発見する」／「韓国リアリズム映画の開拓者 兪賢穆監督特集」カタログ(2005年12月)[論文]

「韓国リアリズム映画の開拓者 兪賢穆監督特集」／カタログ(2005年12月)

[解説・編集]

「松本俊夫監督、『銀輪』を語る」/ NFCニューズレター第65号(2006年2月-3月号)[聞き手・構成]

「小川紳介と土本典昭—映画作家への道」/ アテネ・フランセ文化センター主催の特集上映「小川紳介と土本典昭」(2005年8月11日)[講演]

◆常石史子

「紗が降りる—成瀬巳喜男の中心」/ 『成瀬巳喜男の世界へ』(筑摩書房、2005年6月)[論文]

「映画史の穴を埋める66のパーツ」/ NFCニューズレター 62号(2005年8月-9月号)[論文]

「CURATOR'S CHOICE 46『武士道』」/ NFCニューズレター 62号(2005年8月-9月号)[論文]

「Light from the East: Celebrating Japanese Cinema」/ 『24TH PORDENONE SILENT FILM FESTIVAL』(2005年10月)[解説]

「日本で発見されたドイツ無声映画」/ NFCニューズレター 65号(2006年2月-3月号)[論文]

「第24回ポルデノーネ無声映画祭報告」/ NFCニューズレター 65号(2006年2月-3月号)[論文]

「日本映画に見る花街の女たち」/ 国際交流基金主催の上映事業「巨匠が描いた花街の女たち」(2006年3月18日)[講演]

「Some Pioneering Cases of Digital Restoration in Japan (日本におけるデジタル復元の先駆的諸例)」/ 『Journal of Film Preservation』 69号、The International Federation of Film Archives (FIAP) (2005年5月)[論文]

「新・平家物語」のデジタル復元」/ 『映画テレビ技術』(映画テレビ技術協会、2005年5月号)[論文]

「ロシア・ゴスフィルモフォンドの日本映画 調査・収蔵完了報告」/ NFCニューズレター 61号(2005年6月-7月号)[論文]

「カラー映画のデジタル復元とその色彩」/ 日本色彩学会第36回全国大会の公開講座「色彩演出—隠された技」(2005年5月29日)[講演]

「デジタル経由のフィルム復元(『新・平家物語』より)」/ デジタルシネマコンソーシアム(DCC)主催の「国際デジタルシネマ・シンポジウム」(2005年6月2日)[講演]『日本色彩学会誌』(29巻3号)

「映画作品のデジタル復元と色彩—文化を伝えるデジタル技術をめざして」/ 日本色彩学会主催のシンポジウム「文化を伝える色彩とそのデジタル復元を考える」(2005年6月25日)[講演]

「表象のメディアーション—知の現場、現場の知」/ 表象文化論学会設立準備大会(2005年11月19日)[講演]

◆榎木 章(講演者名:とちぎあきら)

「フィルムセンターの仕事とコミュニティシネマ」/ 映画美学校(2005年9月22日)[講演]

「フィルム・アーカイブとしてのフィルムセンター」/ 社団法人日本映画テレビ技術協会撮影部会特別研究会(2005年11月25日)[講演]